



菅波 茂

20世紀は「大きな思想」の時

代だった。「大きな」とは

死をも賭するという意味で

ある。21世紀は「小さな心」

の時代である。「小さな」

とは個人あるいは家族を大

切にする意味だ。社会のパ

ラダイムは「権威ある代理

制」から「個人の直接参加

制」へと移行している。権

威の崩壊をもたらし、個人

の参加を推進しているのが

IT革命であり、個人参加

を原則としたNGOとNPO

が世界的な影響力を形成

してきている。

「多様性の共存」は多民族、

公設国際貢献大学校

多宗教、多文化の国際社会における20世紀から21世紀への課題となったが、日本の特徴と特性を踏まえて世界が理解してくれ

るミッションステイトメントは

「平和と相互扶助」と確信する。

平和とは家族の今日の生活

と明日の希望が実現できる

状況であり、この平和を阻

害する要因として戦争、災

害そして貧困などが横たわ

っている。これらを解決す

る精神として相互扶助があ

り、相互扶助による活動で

得られる「尊敬と信頼」の

人間関係こそが、「多様性

の共存」を推進できる。す

なわち「小さな心」による

「多様性の共存」への試み

ーランを信じる民)によって提示されてきた歴史は注目されるべきであり、同時に非啓典の民(仏教徒、ヒンズー教徒、儒教信者ら)の考えを理解することは、日本の21世紀の国際貢献にとって不可欠な要素となろう。

公設国際貢献大学校の要諦

は、21世紀の国際社会のさま

ざまな問題を解決する人材の

育成にある。「多様性の共存」

に向けた問題解決の方法論と

して、「大きな思想」と「小

な心」の二つの考えを機軸に、

海外と連携しながら、優秀な人

材を育成に少しでも役立ちたい

と念頭している。さらに本校の

ある哲多町の地域活性化に寄与

できれば本望である。

(アマダイインターナショナル代

表、題字は筆者)

民(旧約聖書、新約聖書、コ

「大きな思想」が啓典の